

分類	発言者	主な意見	県の考え方
こどもの意見	秋本光陽委員	若者が現状肯定的になっている。若者が意見を訴える機会がない、意見を表明しようとする意識が育たないという現状を捉えるべき。	○ 目指す姿として、「こどもが大人と対等の個人として信頼され、社会の一員として参画できる」ことを掲げるとともに、こども・若者の自己決定や選択、表現を尊重し社会全体で後押ししていく考え方をプランに盛り込みました。 ○ 取組の方向としては、こどもや若者、子育て当事者が意見を述べる場や機会をつくり、その意見を施策に反映させ、発信します。 ○ 意見の聴き取りについては、様々な年代や属性のこども・若者を対象とするとともに、内容に応じてアンケート方式や少人数でのヒアリングなどの手法を活用します。 ○ また、こどもの権利や個性を尊重し応援する在り方について、若者と大人が議論する場づくりや情報発信を通じた浸透を図ります。
	早川輝委員	双方向でやりとりができるような聞き方をすることで、次第により具体的な意見をしてくれるようになり、1回聞くだけではわからない子どもたちの意見もあると思う。	
	早川輝委員	若者の声を聴く場には、地域で継続的にじっくりと聞いてくれるサポーターとか、伴走者的な存在が必要。そういうことをしている団体や地域の方々の意見も踏まえる必要があるのでは。	
	貝原弓子委員	アンケートの実施以外にも、ヒアリング・継続的な意見聴取など、本当のニーズを聴き取るような手法を検討してほしい。	
	本間美佳子委員	学校に通っていない子や、パブリックコメントなどに関わる機会の少ない子の声を拾ってほしい。	
	三浦郁男委員代理	声を上げられない、またはそれが難しい方や今困難な状況にある少年の声を、できるだけ広く、すくい上げるような工夫をしてほしい。	
こどもを取り巻く現状の分析	泉澤毅委員	小中高で意識のギャップが大きく生じることはあまり考えられないので、コロナの影響だけでない分析が必要。	○ こども・若者や子育て当事者を取り巻く現状について、データによる分析を行いました（プラン第2章）。 ○ こども・若者、子育て世帯、支援機関などを対象として、現状や課題、県への提言など意見聴き取りを行い、プランへの反映を図っています。 ○ 中高生や保護者、青年を対象とした意識調査（無作為抽出による標本調査）を実施しており、中間結果を近日共有させていただきます。
	川村真耶委員	小中学生と高校生との間で、自分の地域に対する愛着の意識にギャップがあるので、その背景を分析すべきではないか。	
	菊池拓朗委員	学校が楽しいと思う児童生徒、自分の住む地域が好きだと思っている児童生徒の違いが仮にコロナなのであれば、その違いをもう少し精査する必要がある。	
	齊藤眞理子委員	（全日制だけでなく定時制など）多面的な調査が必要。家庭の貧困、グレイゾーンなどの実態を、関係機関との連携なども踏まえて、対応していく必要がある。	

こどもを地域で育成する社会づくり	泉澤毅委員	子どもの数が減少している中、多様な子どもの在り方を包摂するため、学校だけでなく地域と一体となって育てる必要がある。社会意識を変えていく取組が必要。	○ プラン案において、こども・若者の自己決定や選択、表現を尊重し社会全体で後押ししていく考え方を掲げました。 ○ 地域やコミュニティにおいて学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを支えるため、教育振興運動などを通じた連携に取り組みます。 ○ 地域社会全体で子育てする方々や子どもを温かく見守る環境づくりに取り組む機運を醸成するため、「いわてで生み育てる県民運動」に取り組みます。（キャッチフレーズ：いわての子 みんなでつくる大きなゆりかご）
	高橋和恵委員	近年は、大学生が今まで培ってきたものを発揮できるような場を作っていこうということに取り組んでいるが、こういう取組は連携したらもっと力を発揮できるのではないか。	
	貝原弓子委員	こどもの育成に地域の中で色々活動しているコミュニティを結びつければ大きな力になるのではないか。	
若者の活躍を応援する社会づくり	川村真耶委員	若者がチャレンジしやすい環境が必要であることはもちろん、応援者・支援者を増やすという取組が必要。 若者からは岩手県は面白くないから県外に出て行きたいとか、就職では県外に行きたいという声を聴くが、その「面白い」とは、面白いと思える大人や企業、会社がない、すなわち岩手県に愛着を持ってないところにあるのではないか。企業や大人を巻き込んでみんなで変わっていく必要があるのではないか。	○ プラン案において、こども・若者の自己決定や選択、表現を尊重し社会全体で後押ししていく考え方を掲げました。 ○ 若者の活動や地域との交流を後押しするため、若者の活動・交流の場（若者カフェや連携拠点）、カフェマスターによる助言、活動への補助などの取組の充実を図ります。 ○ 若者の活動を社会全体で応援する機運の醸成を図るため、若者と大人がともに考え議論する機会の提供（いわてネクストジェネレーションフォーラムなど）や、若者の活躍状況の発信などに取り組みます。
子育て世帯への支援	木下実幸委員	学校が楽しくないとか、家で好きなものを買ってもらえないという子どもがいる背景には、悩みを抱えていても相談できずにいる保護者もいる。 相談に行く時間がない、相談するのにためらいがある方が少なくないことから、LINE の活用や24時間での受付体制など、相談窓口の充実が必要。	○ 子育てにおける悩みを抱える保護者、支援を必要とする保護者に対しても、相談しやすい体制づくりや相談内容に応じた関係機関の連携の充実を図るとともに、各種支援制度の周知広報に取り組みます。 ○ 仕事と生活を両立できる環境づくりに向けて企業の取組を促すほか、性別にかかわらず活躍できる社会づくりに向けて、女性のスキル向上への支援や性別による固定的な役割分担意識の解消を図るなど、子育て世帯に対する取組を進めます。
	早川輝委員	子育てをする親も含め、子育ての支援が重要。	
	五十嵐のぶ代会長	出産する女性にとって、子育てできる環境とともに、働くことによる自分自身の生きがいや経済的な自立も必要。子育てしながら働く人、子育てがひと段落してまた働く人を応援するシステムや周りのサポートがあれば、育児に対して勇気を持って取り組めるのではないか。	
	菊池勝雄委員	家庭のあり方や価値観が多様化している中、教育や支援の現場は苦勞しているのではないか。	

自己肯定感や地域への誇り	中村幸子委員	学校が楽しくないという背景には、いじめとか様々な問題があるかと思うが、それを生まないような教育と同時に、どの子ども安心して学校生活が送れる、肯定感が高められる学校にしていけることがあらためて必要。	○ 学童期や思春期を中心に、地域やコミュニティにおいて学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを支える取組を進めるとともに、青少年活動交流センターや若者カフェを拠点としたこども・若者の活躍への支援や、若者の活躍を地域で応援する機運醸成、県内企業の魅力発信などを通じて、自己肯定感や地域への愛着・誇りを持てるよう取組を進めます。
	中村幸子委員	地域の愛着が持てるような、地域との繋がりが大事。大人たちがこの地域はすごくいいところだと子どもや若者に伝えていくことが大切。	
震災からの復興	中村幸子委員	震災被災地の方への聴き取りを通じて、スクールカウンセラーなど、子どもだけではなく保護者の方の心のうちを聞いていただける役割の方が改めて必要だと感じた。繋がりが希薄になってきているということも含め、保護者の方への支援がより大事にする必要がある。	○ 「東日本大震災津波の影響を受けたこどもや保護者への支援」として、被災によるトラウマ等を抱えるこどもや保護者への支援のほか、要保護児童への支援、被災したこどもの学びの環境への支援に取り組みます。 ○ また、震災の教訓や経験を伝承するとともに、地域の復興・発展を支える人材の育成を図る復興教育に取り組みます。
インターネットの適切な利用	齊藤眞理子委員	ネットの被害にも対策を講じる必要がある。	○ こどものインターネットやスマートフォンの利用については、低年齢化が進んでいるほか、利用上のトラブルやルールづくりに不安を感じるこどもや保護者も多いことから、情報モラルの普及啓発や保護者・指導者等に対する対応能力の向上に取り組みます。
情報発信	菊池勝雄委員	若者はSNSなどの口コミを主な情報源とするなど、今までと比べて情報の受け取り方が変わってきている。	○ 各種情報発信に当たっては、SNS等も活用し、支援等の情報を必要とする当事者に情報が届くよう取り組みます。
目標設定	早川輝委員	切れ目のない継続的な支援というのが重要。ビジョン達成に向けて継続的な取組状況を捉える最上位の目標として、子どもやそれを取り巻く環境の状態を示すような数値が必要ではないか。	○ 目指す姿の実現に向けた達成度をはかる指標として、「合計特殊出生率」、「共働き世帯の男性の家事時間割合」、「総実労働時間」を設定しました。（いわて県民計画（2019～2028）における「家族・子育て」分野の主要指標） ○ また、各取組項目においても、取組の状況をはかる指標を設定しています。